

新人看護師と指導する看護師の意識の相違を知る

4階東病棟：○藤川裕比 田中志帆 永吉直子 瀧内麻美 調 由美子 内田ひろみ

【研究目的】

社会人基礎力は、職場や地域社会の中で多様な人々と仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力であり、他者との関係や様々な経験の中で身につけていくものである。昨今は情報科学や情報機器の発達などによって他者との関係や経験は変容し社会人基礎力は弱まっている傾向にある。新人が日々の経験から学びを深めていく過程において、指導者の役割は重要である。しかし、現状としては先輩看護師の問いかけに対して新人看護師が「大丈夫です」といった返答が比較的多く、どこまで理解しどこで困っているのかを引き出すことが難しい。今回当病棟新人看護師スタッフ・指導する看護師スタッフの両者に意識調査を行い、互いの相違を知り新人指導の課題を明らかにすることを目的とした。

【研究方法】

対象： 朝倉医師会病院4階東病棟看護職員 21名（研究スタッフを除く）

期間： 平成29年11月18日～11月30日

調査方法： 新人看護師（以下1～2年目を新人看護師とする）と指導する看護師それぞれに対してアンケートを作成して対象看護師へ配布し、回収後分析する

【結果】

新人看護師6名・先輩看護師15名に記述式アンケートを行い、新人看護師は6名中6名で有効回答率100%、先輩看護師は15名中13名で有効回答率87%であった。

記述式アンケートを行った結果、新人看護師アンケートでは「分かりやすい指導を期待している、根拠を含めて指導してもらえると嬉しい」という意見があった。指導する看護師へ向けたアンケートでは「忙しい時は丁寧に説明する時間が取れない、自分からヘルプを出してくれないと助けが必要か分からない」という意見があった。

新人・先輩看護師ともに患者のことを考えて看護を行うこと、高い技術を身につけることの認識は共通していた。指導に関しては、新人看護師は看護を行う上で困ったことがあればその都度先輩看護師に指導を求めて根拠や理由をその場で解決したいと思っているが、先輩看護師は自分でアセスメントし考える力をつけることを新人看護師に求めていることが判明した。

【考察】

アンケートの結果より、新人看護師は「先輩看護師の意見やアドバイスを早く教えてほしい」と思っており、先輩看護師は「自分でアセスメントし、基礎を含めゆっくり丁寧に教えたい」と思っている。しかし、複雑化した業務に追われ、根拠や病態からのアセスメント等を一つ一つ丁寧に指導する時間的余裕がないのが現状である。忙しい業務の中で効率よく短時間で相手に伝わりやすいよう指導していくには、コミュニケーション力が不可欠である。

昨今のIT化による影響で社会人基礎力は低下し日々のコミュニケーション不足が考えられる。斎藤氏は、「新人が何をどのように考え行動しようとしているのか、また同様に先輩も新人に対してどう考え、指導しようとしているのかを相互に十分に理解する作業が必要です。お互いの思いばかりを示しあっても上手くはいきません。指導を始める前や、その途中でかみ合わなくなった時に、認識のズレを丁寧に理解しあう作業を繰り返す必要があります。」¹⁾と述べている。

患者とのやり取りと同じように良好な信頼関係を築くことが円滑にコミュニケーションをとる近道である。今回の研究で、普段から表情や声のトーンといった非言語的コミュニケーション、挨拶や何気ない声掛けといった言語的コミュニケーションを意識して行い、双方が歩み寄っていく重要性を再認識することが出来た。